

夕暮れ時の運転に気を付けましょう



秋は日没時間が日増しに早くなり、運転手から歩行者や自転車の動きが見えづらくなる夕暮れ時と仕事や学校からの帰宅時間が重なるため、交通事故の危険が高まります。9月21日(火)～30日(木)は、秋の全国交通安全運動の実施期間です。交通ルールを守り、思いやり運転で交通事故をなくしましょう。

市民一斉交通安全街頭大監視
時 9月24日(金)
 概ね午前7時30分～8時30分
場 主要交差点・通学(園)路・事業所前等
問 防災交通課
☎ 84-0628

いつもの食事に、野菜をプラス1品!

野菜には、生活習慣病やがんを予防する効果があります。

愛知県は、野菜の生産量が多いにもかかわらず、食べている量は全国最低のレベルです。([平成28年国民健康・栄養調査]より、男性ワースト1位・女性ワースト3位)

1日に必要な野菜の量は350gですが、現状では110gほど不足しており、これは小鉢2杯分の野菜料理にあたります。

まずは無理なくプラス1品! 野菜を増やして健康な身体を作りましょう!

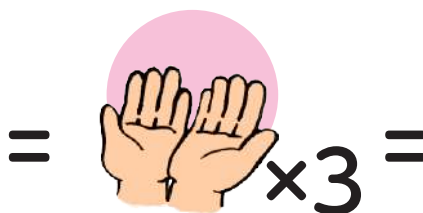
問 保健センター **☎** 84-0646

たとえば…

- すぐに食べられる野菜(トマト・きゅうり・カット野菜など)を常備する。
- 夕食の野菜料理を多めに作っておいて、翌日の朝食でも食べる。
- 外食では、丼ものや麺類よりも、野菜がある定食メニューを選ぶ。



1日分の野菜(350g)は…



両手3杯分



小鉢5品程度

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第56回 南吉を診た医者

新美南吉記念館では、10月24日(日)まで特別展「コロナ禍に南吉を読む～感染症と新美南吉～」を開催しています。命に関わる新型コロナウイルス感染症はもちろん、ちょっと風邪をこじらせたような時でもまず頼りにするのは、やはり地域のお医者さんですね。今回は特別展から、病がちだった南吉が掛かった地元の二つの医院についてご紹介します。

まずは、血尿が出て腎臓結核を疑った南吉が昭和17年に受診した中野医院(写真)です。現在の中野整形外科に当たり、南吉の日記に「そこがいいというので成岩の中野医院というのへ行った。小さい二つの門歯をもった太った人のよさそうな壮年の医者であった。」(昭17.1.11)と書かれた中野英雄医師は、現在の院長の先々代になります。会場では、その日記のほか、英雄医師の頃から使われていた調剤用の天秤ばかりや聴診器なども展示しています。もしかしら南吉も目にしたものかもしれませんね。



もうひとつは、JR半田駅北側の大踏切を西に渡ったところにあった丹羽医院です。昭和18年に南吉の最期を看取った医院で、当時は8人の看護師を抱え、結核患者用の隔離病室もありました。丹羽長大医師が南吉を往診する際に随行したという看護師は、こう語っています。「ビタミンD、C、B₁打っただけ。もう、亡くなられることは、わかっているもん」(神谷幸之著『南吉おぼえ書』)。

特效薬がなかった当時、感染する結核はとても恐れられました。若くして結核に斃れた南吉は、死の恐怖と共に人から避けられる孤独にも苦しんでいます。コロナ禍の今だからこそ、そんな南吉の生涯とそこから生まれた作品に触れていただければと思います。

新美南吉記念館 遠山光嗣